

成果の説明書

(氏名)小林 徹	(学部)経済学部
1 重要事項 【研究活動】 A：介護報酬の変更が介護職従事者の賃金に与えた影響に関する計量分析を行い、The 16th International Conference of the Japan Economic Policy Association において学会報告を行った。また、Applied Economics Letters への投稿を行い審査中である。 B：賃金格差と学歴と技術進歩との関係についてマクロデータを用いたサーベイを実施し、以下の論文として発表した。 ・「学歴間の労働所得格差は拡大しているのか」、『大学への教育投資と世代間所得移転』、樋口美雄・萩原里紗編著、勁草書房 C：研究協力者として参画しているプロジェクト（厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）「就業状態の変化と積極的労働市場政策に関する研究」（研究代表者－山本勲慶應義塾大学教授））において、「21世紀成年者縦断調査」を用いた研究を実施し、以下2点の成果として発表した。 ・「非正規雇用からの正規雇用の転換と技術革新」、『多様化する日本人の働き方——非正規・女性・高齢者の活躍の場を探る』阿部正浩・山本勲編著、第1章。 ・「転職と企業内異動による職種転換」、高崎経済大学経済学会『高崎経済大学論集』、第60巻、2・3合併号 D：専門誌からの依頼を受け、以下のサーベイペーパーを作成。 ・「求められる職能の変化と産業間における違い」、『都市住宅学』、都市住宅学会、99号。 ・「信仰が経済生活や幸福感に与える影響」、『月刊福音宣教』、オリエンス宗教研究所、2017年10月号 【教育活動】 労働経済学の講義では大森義明『労働経済学』日本評論社と小崎敏男・牧野文夫・吉田良生『キャリアと労働の経済学』日本評論社、Borjas”Labr Economics”からテキストを構成した。今期からPCスライドを用いるだけでなく板書をメインに説明した。 また配偶者控除制度の変更や働き方改革など話題になった労働政策については、ニュース映像なども紹介し、制度変更の影響がどのように理論で説明されるかについて紹介した。練習問題や小テストの問題は、労働基準監督官の過去問題を用いるなど、公務員試験にも有益となるような問題を作成した。 応用計量経済学では、連合が実施したアンケート調査の個票データを教育目的で借り受け、演習形式でエクセルを用いた計量分析を指導した。また公的統計からデータセットを作成する際や、既存の個票データに別データを接合する際に役に立つ機能などデータの作り方についても演習を行った。2回の分析レポートでは、提出レポートについて添削を行い、復習すべき点やさらに分析能力を伸ばすためのアドバイスを付け返却した 演習では、演習Ⅰにてグループ研究を実施した。学内の学長杯プレゼンテーション大会への参加や、日本政策学生会議への参加を行った。基礎演習では、労働研究を中心に論文の輪読を行った。	
2 その他の事項 A 出前授業：足利女子高等学校 B ワークショップ報告：「労働政策と実証分析」・樋口美雄先生退任記念ワークショップ・	

C 厚生労働省「勤務間インターバル制度普及促進のための有識者検討会」委員

3 次年度以降の計画・抱負

・技術進歩と職業別賃金格差の変化に関する研究を、賃金構造基本統計調査の個票データを用いて行っている。本研究を論文としてまとめ JJIE など日本に関する英文ジャーナルへ投稿する。また本分野に関する研究は、他大学を代表者とした JST 研究プロジェクトにおける研究協力者としても行っている。ここではタスクと賃金との関係に関する報告書や論文を作成する。

・専門誌への依頼論文として、宗教と経済に関するサーベイペーパーを掲載した。日本に関する本分野の実証分析は不足しており、研究を行い海外ジャーナルへ投稿する。

・勤務地に応じた出身地による差別の研究を、プロ野球選手のデータをもとにプロ野球労働市場を例に分析を行った。本分析成果を論文にまとめ刊行させる。